

令和6年4月15日
国土交通省関東地方整備局
京浜港湾事務所

令和6年度 京浜港湾事務所の事業概要について

京浜港湾事務所では、令和6年度においては、以下の事業を実施します。

1. 横浜港本牧ふ頭及び新本牧ふ頭においては、近年のコンテナ船の大型化や、増大するコンテナ貨物の取扱いに適切に対応し、海上輸送コストの削減や、国際基幹航路の維持・拡大のため、国際コンテナ戦略港湾の競争力強化に資する、コンテナターミナルの再編整備を進めます。
2. 川崎港においては、東扇島地区への物流機能の集積化に伴い、慢性化する交通混雑の緩和と、広域防災拠点への陸送ルートの多重化を図るため、東扇島地区と内陸部を結ぶ臨港道路の整備を進めます。

※詳細については別紙のとおり

<発表記者クラブ>

竹芝記者クラブ、横浜海事記者クラブ、神奈川建設記者会、神奈川県政記者クラブ、川崎記者クラブ、物流専門誌

<問い合わせ先>

関東地方整備局 京浜港湾事務所

電話：045-226-3740（代表） Email：keihin-k83ab@mlit.go.jp

副所長（事務） 上妻 照由（かみつま てるよし）

副所長（技術） 雨宮 康良（あめみや やすよし）

統括建設管理官 加藤 浩司（かとう こうじ）

第一工務課長 渡部 昌治（わたなべ まさはる）

保全課長 外崎 正（とのさき ただし）

事業の概要

コンテナ船の大型化や船社間の連携による基幹航路の再編等、海運・港湾を取り巻く情勢が変化する中、基幹航路に就航する大型船の入港や、増加するコンテナ貨物の取扱いに適切に対応し、我が国に寄港する国際基幹航路の維持・拡大を図るため、横浜港においてコンテナターミナルの再編整備を進めます。

令和6年度予定

- 本牧ふ頭地区D5岸壁(水深16m) および荷さばき地の本体工、上部工、舗装工等を実施する予定です。
- 新本牧地区岸壁(水深18m~)、護岸(防波)および荷さばき地の地盤改良工、基礎工、本体工等を実施する予定です。

事業の効果

- コンテナ貨物の増加とコンテナ船の大型化に適切に対応することにより、海上輸送コストの削減等が可能となります。
- アライアンス拠点港としての利便性を高め、北米・欧州基幹航路の維持・拡大を図ることにより、物流効率化による我が国産業の国際競争力強化に寄与します。
- 耐震岸壁の整備により、震災時においても物流機能が維持されることで、我が国の産業活動と市民生活の安全・安心を確保します。

【位置図】



令和4年 11月撮影

Satellite Image (C)[2022] Maxar Technologies.

事業の概要

国際コンテナ戦略港湾である京浜港の一翼を担う川崎港において、コンテナターミナルでの貨物取扱量の増加や日本随一の冷凍冷蔵倉庫群等のロジスティクス機能の充実に伴う将来交通量の需要の増大に対応し、円滑な物流を確保するため、東扇島地区と内陸部を結ぶ臨港道路を整備しています。

令和6年度予定

○水江町地区等における橋梁の上部工、下部工等を実施する予定です。

事業の効果

○川崎港と背後圏のアクセスが向上します。

○基幹的広域防災拠点が立地する東扇島と背後圏を結ぶ緊急物資輸送ルートが新たに拡充され、首都圏の防災機能の強化が図られます。

※基幹的広域防災拠点：災害時において、緊急物資輸送の中継基地や広域支援部隊等の一時集結地・ベースキャンプとして機能する施設。通常時は公園としても機能する。

